



第 23 回交流会 「小網代の秋をみつけよう！」

開催日：2020 年 10 月 25 日（日）快晴

参 加：18 名

なんといっても青空！

壁の地衣類に新しい出会い！

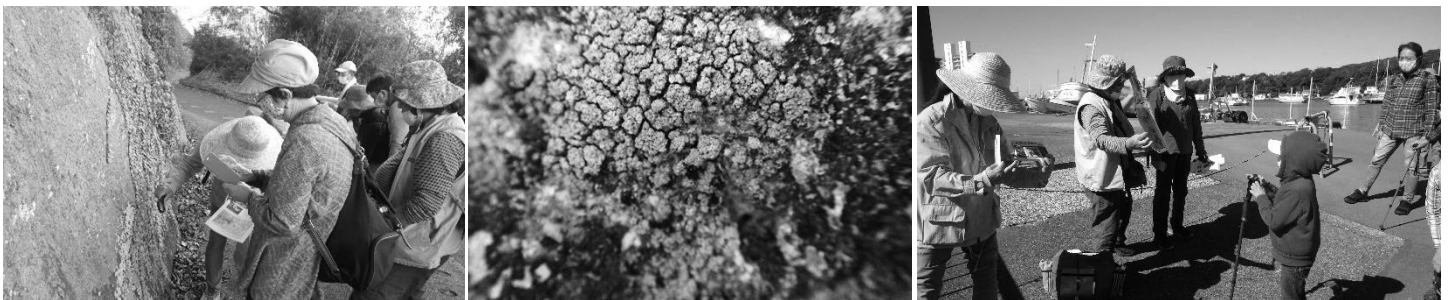
アシの草梯子を探す目！

落ち葉で綺麗を構成する感性！

そして緊急事態に対応して下さった方々への大感謝！

無風、快晴！これ以上ない上天気恵まれた 10 月 25 日、駅前には会員さんとそのご友人やお知り合い 11 人、スタッフ 7 名（受付なども含みます。）が、懐かしい出会いのおしゃべりをしながら集合！

進行役の案内で先ず、油壺行きバスに乗り、小網代のバス停で下車。近くの駐車場をお借りして、地衣類の簡単な説明を受け、漁港へ下って行きます。去年の地衣類の学習をした時の成果を、N さんがこあじろの森くらぶ通信に掲載。それを持って現場と照合しながら歩きます。周りの景色も入れているので、分かりやすい案内プリントとなりました。ルーペで確認しながら新しい未知の世界へ入り込みます。「こんな姿をしていたんだね。」「マツゲゴケのまつげが見えたよ！」



漁港へついて、寄せる小波と早速、戯れもしましたが、ここで、最近、三浦半島の山々で気になる「ナラ枯れ」について M さんからのレクチャー。独立行政法人「森林総合研究所」作成の図が入った資料が配布されてメカニズムが説明されました。漁港からは枯れた木々で茶色になった森の一部が見られました。

カシノナガキクイムシと言う在来甲虫が、生きている木に穴を掘り、その中にメスは産卵。メスの背中にいる病原のナラ菌（ラファエレラ菌）が幹の中で繁殖、水の通り道を塞いでしまうので、水不足で木が枯れる、ということでした。

昔は、古い大きい木は薪炭材などとして使われて来ていたのだが、今は放置されている。そこにナラ菌の蔓延があった。（独）森林総合研究所の配布している資料には公園などの大きい木は放置しないで伐採し、薪やストーブで利用し、若い林にすることが肝要とありました。

参考までに、この甲虫の生活を細かく調べた小林正秀さん（京都府林業試験場主任）が、「ブナ科樹木萎凋病を媒介するカシノナガキクイムシ」として、「樹の中の虫の不思議な生活/穿孔性昆虫研究への招待」〈東海大出版会〉という出版物の中に報告しています。興味のある方は図書館の蔵書にあるかも知れませんが、是非、問い合わせてみて下さい。

その後、会員で昆虫に詳しい M さんから森の通行止めの原因になったスズメバチについての話が詳しくありました。オオスズメバチよりもキイロスズメバチの方が凶暴なので、警戒の必要があること、匂いのするもの、黒い衣服、追い払う行為などは避けたいと言うことでした。ちなみにこの日、オオスズメバチの死骸を 1 匹、観察路で見つけました。生オオスズメバチを見たスタッフもありました。

次に秋を感じて貰いたいと、葉っぱで作った造形の例を見て貰いました。これはスタッフの T さんが以前、森で作った 2 作品で、2 冊の本の表紙を飾っています。ここから森の入り口まで、綺麗な落ち葉を拾って歩きます。途中でトイレ休憩をとる方も。人とのデスタンスをとることが望まれている昨今を踏まえてか、私たちの列は随分長くなっていました。



カニ団地でアカテガニの冬眠準備の姿を、光を当てて覗いてみて確認！少し安心。宮前峠から満潮の小網代湾を左に見て、綺麗！と立ち止まり、眺望テラスでガマの穂を愛でて、えのきテラスへ。先頭組は昼ご飯が終わっています。遅い組を心配して、交代しようと進行役の M さんが戻ります。えのきテラスでは大勢の方が通過したと、物品販売をされている NPO の方が嬉しそうに話してくれました。オギの花穂が大きく揺れて銀の波のようです。イヌタデが一旦刈り取られてもう一度、生えて来ていて、ミニミニピンクの一角を作っています。モズの声が聞こえます。

最後の方が到着、お弁当を開いているのを見た直ぐのことでした。急に具合が悪くなられた方がいて、特に厳しい状態ではないとは思いますが念のために、病院へ行って貰います。スタッフを森を進んでいくグループと、ここで援助するグループの二手に分けました。筆者は森を上がっていく方にまわりました。救急車に同乗するスタッフが一人、そこまでサポートするスタッフや参加者が 4 人。宮前峠まで漁港から救急車が入らない事を知っていた地元の方が軽トラを出して下さったと後で聞きました。NPO の方にもお世話になりました。

参加者の K さんが先頭で歩いているのを呼び戻して、下見の時に気がついたアシの葉でできた草の梯子、タテシマノメイガという蛾の幼虫が作ったアシの筒巢を見て貰います。この奇妙なアシの葉が階段状に見えるものの正体は平成 5 年、県立自然保護センターの川村優子さんの研究で細かく分かりました。「幼虫がまだ若い頃に若い葉を糸で綴って縦の筒型の巣を作り、葉を食べて成長します。アシの葉は下の葉ほど、大きく成長する、だから綴られたアシの葉は、梯子状になるのです。」などと優子さんの研究を説明します。

何とこの時、「川村さんは同級生で一緒にテニスをやったわよ。」と参加の会員の声。世界は狭い？でした。

最年少参加者の小学 2 年生の可愛い男の子が一生懸命、散策路の両側にあるタテシマノメイガの直立巣を見つけてみんなに教えてくれました。

やなぎテラスについて、いよいよ落ち葉の造形の時間です。ベージュ色のコルク面の額に綺麗な落ち葉を置いて何



になるのかな？何に見えるかな？何を作ってみようかな？皆さん、葉っぱを置いたり、とったり、重ねたりの試行錯誤。この時間が最近の脳科学では脳に良い時間とされているようですね。参加者の額を覗いて、出来合いの目玉はいらんかね、とお勧めしたり、空間が大事だと言ってみたり、ボンドを配った立場で歩き回りました。

できあがった作品と一緒に参加者の S さんと E さんに写真を撮って貰いました。撮影担当のスタッフはまだ、えのきテラスにいるようで、見当

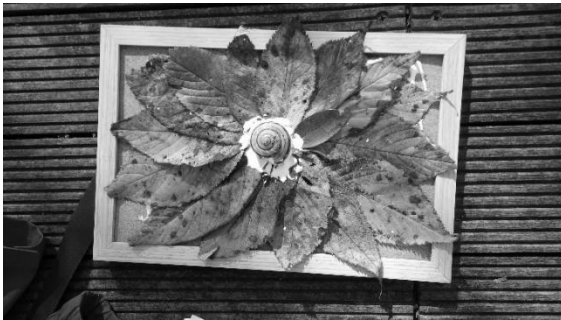


アシの草梯子

たりませんでしたので。どの作品も同じ物はなく、ハロウィンだったり、風車のようなだったり、いろいろにとれる色と形。どれもバランスのとれた個性あふれる芸術でした。

ここで作品発表会をすれば良かったのですが、陽が傾きはじめ、夕暮れの気配がしてきたので、まとめの会にしました。参加の感想を一人ひとりに言ってもらいました。録音担当スタッフが録音して、テープ起こしスタッフにリレー。きっと通信担当がこの紙面に掲載してくれているはずです。皆さん、気持ちよく参加し、よく協力してくださいました。それが今日、スタッフ全員が一番嬉しかったことです。

そうそう、具合の悪くなった方から「元気になりました。ご心配かけて済みません。外に出るときは「健康保険証」を携帯すると自分のように困ることはないですよ。」と伝言を頼まれました。スタッフ会議で「お薬手帳もあると良いかも」と言っている人も、いました。



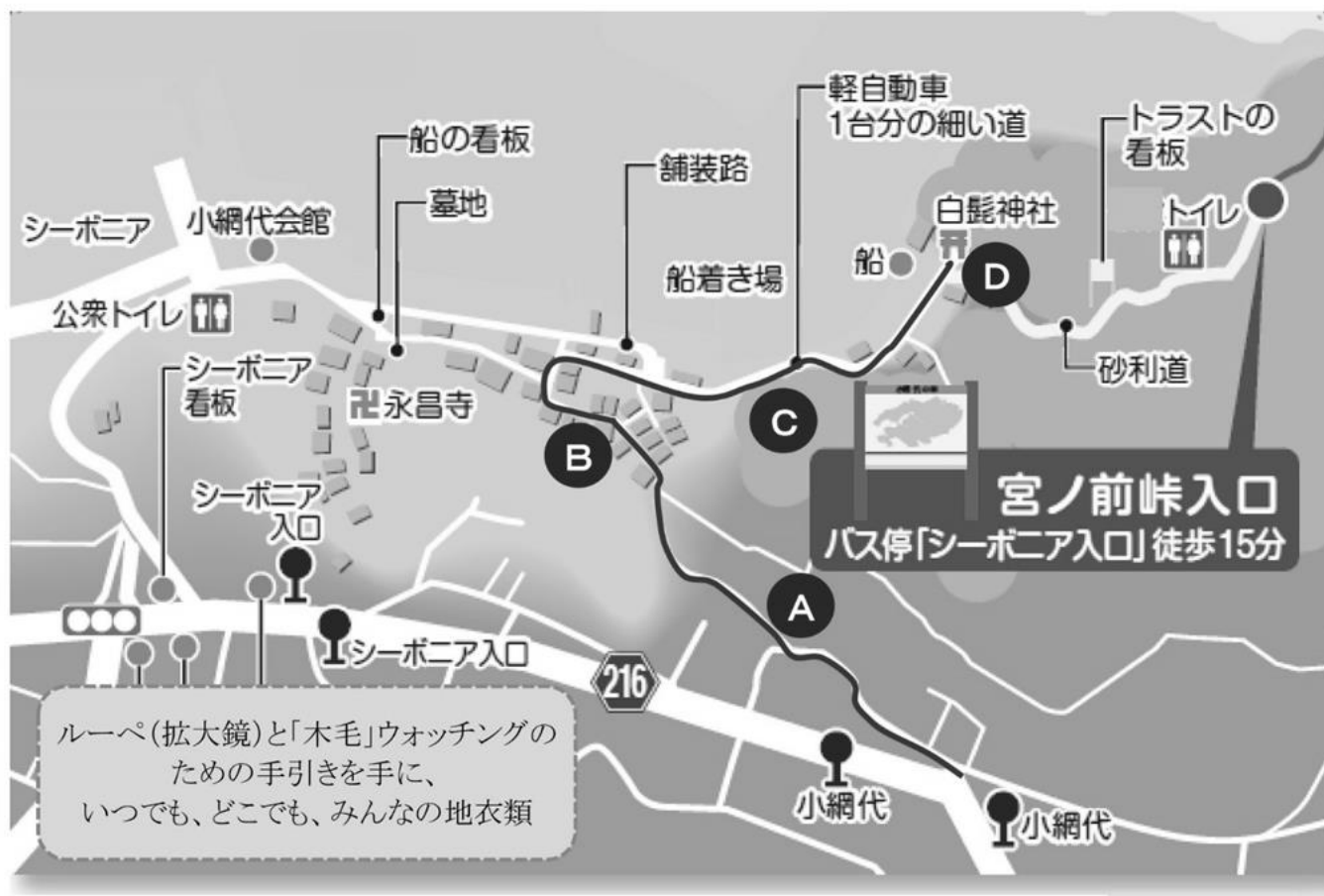
参加者の皆さんのご協力、地元の方の応援、幾重にも感謝申し上げます。

2020/10/29 宮本記 写真：浪本、木皿、遠藤さん、桜井さん



資料1 地衣類

こあじろの森くらぶ通信 No. 19 (2019 年 11 月 24 日発行) より抜粋
小網代白髭神社周辺の地衣類 (2019 年 10 月 20 日現在)



かながわトラストみどり財団 2104 秋 [ミドリ] no. 94 掲載地図を借用しました

※種名のあとの括弧書きは地衣類ネットワークの Facebook グループ上の解説を一部引用させていただきました。

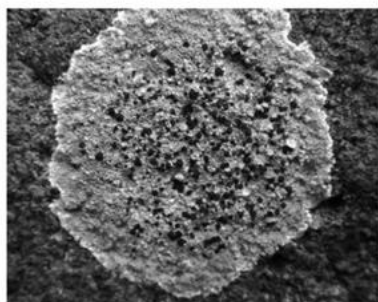
A

小網代バス停からの坂道

- ・ハコネイボゴケ
- ・ダイダイゴケ sp, (ふちが白っぽいやつ)
- ・クロブチコダイダイゴケ (まわりが黒いやつ)
- ・イワノミドリゴケ
- ・レプラゴケ
- ・チヂレクロウラムカデゴケ
- ・クロウラムカデゴケ
- ・アナイボゴケ
- ・ツブレプラゴケ



コンクリートの擁壁にへばりつく人たち、何してんだろ？



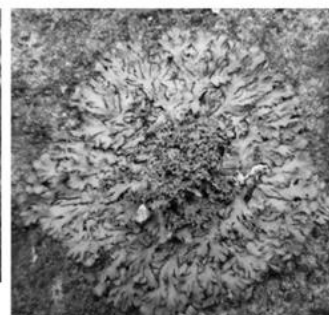
ハコネイボゴケ
(黒い皿状(成熟するにつれ凸状)のレキデア型子器をつけます。)



ダイダイゴケ sp.
(黄色の地衣体に白い部分が混ざります。地衣体は連続しています。)



ツブレプラゴケ
(緑色の綿毛状の地衣体の特徴です。岩上やコンクリート壁によく見かけます。)



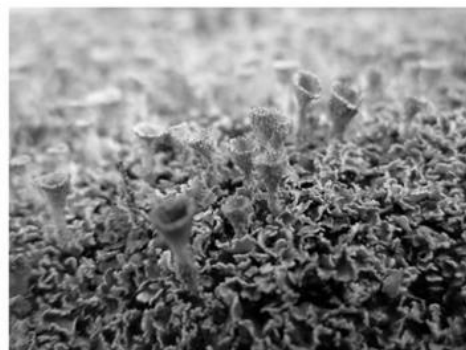
チヂレクロウラムカデゴケ
(小裂片をびっしり付けています。)

B 小網代集落周辺

- ・ジョウゴゴケモドキ
- ・キダイダイゴケ
- ・ツエハナゴケ
- ・コフキヂリナリア
- ・不明(トリハダゴケのなかま?)
- ・イシガキチャシブゴケ
- ・コチャシブゴケ



ツエハナゴケ



ジョウゴゴケモドキ (盃内に顆粒状の粉芽塊をつけます。)



民家のブロック塀の上に
めくめく世界を発見し、大興奮。
2種類の樹状地衣が棲み分け。



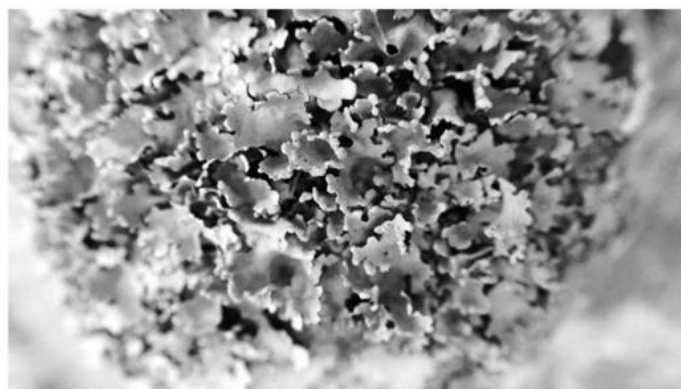
キダイダイゴケ
昔の船問屋跡の石塀にびっしり。

C 石仏のある湾奥の道周辺

- ・マツゲゴケ



地元の方に大事にされているお地藏様。



マツゲゴケ (葉縁に球状の粉芽塊、葉縁に長さ 2mm 以上のまつ毛をつける。粉芽塊の裏面は白色、類似種のオオマツゲゴケは黒色。)

D 白髭神社

- ・ウメノキゴケ
- ・ムカデコゴケ
- ・コガネゴケ
- ・ヒラムシゴケ
- ・ゴフンゴケ
- ・コナチャシブゴケ



社殿の前のイチヨウの木についていた
ヒラムシゴケ。(裂片先端が橙色に縁取
られます。粉芽塊をつけます。調べ
ると、神奈川県新産でした。)



トタン板につくムカデコゴケ



角の民家の石垣にゴフンゴケ

番外

- ・スポーツ公園の縁石 ヒメミドリゴケ
 - ・森の中の樹上 ナミガタウメノキゴケ
- 干潟には海岸性の地衣類、森の上流にはモジゴケ類がいるはず。またの機会の楽しみにいたしましょう。

地衣類交流会の写真：T.Ishizuka、浪本晴美

2019年10月20日(日)第18回交流会「いつでも、どこでも、みんなの地衣類」にて、地衣類ネットワーク主宰の山本好和先生を講師にお招きし、身近にあっても、見えているようで見えていなかった地衣類のふしぎを教えてくださいました。本資料はその時の報告から抜粋しました。詳細は通信 No.19 をご参照ください。通信バックナンバーはこちらです。

http://www.mori-club.com/press/press_back-no.html

参考資料

- ★「木毛」ウォッチングのための手引き 地衣類ネットワーク発行
地衣類初級編第2版(2012年6月30日発行、定価 2,000円)
- ★『となりの地衣類』 盛口満著／八坂書房(定価 2,090円)
- ★地衣類ネットワーク <http://jlichen.com/index.htm>

資料 2 ナラ枯れ

「ナラ枯れ」現象について

ここ数年まわりを見回すと、夏でも枯れている木の多さにびっくりする。ナラ枯れ（正式にはブナ科樹木いちょうびょう 萎凋病）と言う病気のせいらしい。

小網代の森も例外ではない。県が昨年空撮で確認したところ、森の樹木の一割近い部分が茶色く枯れていることがわかったそうだ。200本の木に駆除薬を注入するのが精いっぱいだったというが、焼け石に水かもしれない。

私たちがこの現象を正しく知り、何かできることはないかと真剣に考えなければならないだろう。ちょうど今、コロナウィルスと対峙しているように。

ナラ枯れはその名の通り、ミズナラ、コナラ等の落葉広葉樹で特に集団的被害がみられる。正式名のブナ科では、ナラ、カシ、シイ、クリ等、ほとんど全ての属で枯死に至る被害がみられるが、ブナ属だけは水分が多すぎることによって被害を免れるというのが面白い。

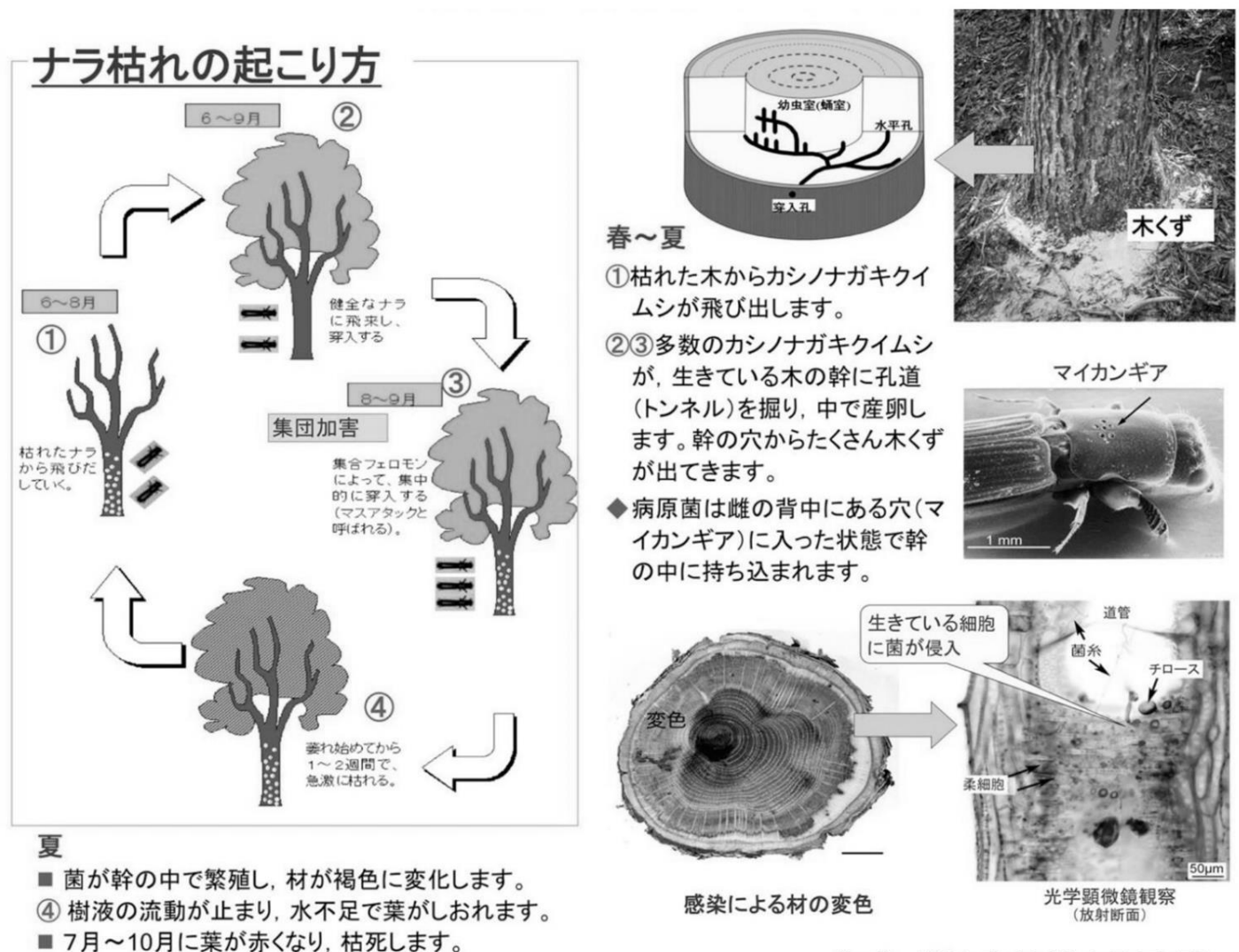
元凶は、カシノナガキクイムシ（カシナガ）という甲虫が媒介するナラ菌（ラファエレラ菌）というカビ（糸状菌）で、これが大群で穿入するカシナガによって運び込まれ一気に蔓延し、健康な樹木が急激に枯死する。カシナガは効率の良い太い木の幹を畑にして、まるで農業を行うように幼虫の餌となるナラ菌を培養する。狙われた木はナラ菌の増殖を阻止しようとして、通水機能を止めてしまい枯死に至る。

カシナガは在来の昆虫でナラ枯れも昔からあった現象であるが、昔は薪炭林として15～20年で伐採されていた木が近年は放置され、カシナガの好む太い木が増え、被害が増大している。

日本海側に被害が多かったが、近年は1000メートル以上の高地を除き、ほぼ全国に被害が広がっている。

参考資料：『樹の中の虫の不思議な生活 穿孔性昆虫研究への招待』柴田叡弑・富樫一巳 編著

（独）森林総合研究所が公開しているナラ枯れのメカニズムを表した下図を参照して頂きたい。



作成：（独）森林総合研究所

●●●● ご参加の皆さまからコメントを寄せていただきました ●●●●

久々に小網代に来て、結構いろいろあって、面白かったです。以上です。

今日はとてもいい天気で、ハプニングもありましたが、いい日を過ごしたと思います。

とても楽しかったです。また、参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

会員ではないですが、今日、参加させていただいて、本当に楽しかったです。カニも見られましたし、クサバシゴも見られましたし、本当に、こんなにいろいろガイドしていただきながら贅沢に一日を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

久しぶりの小網代という感じなんですけれど、秋もいいですね。クサバシゴ覚えましたが、明日はどうか分からないですけど…。また、いろいろ教えて下さい。よろしくお願いします。

今日は、こんなに近いところに自然がいっぱいあって楽しめました。ありがとうございました。

私は、本当に付き添いでしたが、楽しませていただきました。ありがとうございました。

楽しかったで～す！

私、横須賀に何十年も住んでいて、こんなにいい所があるなんて、聞いてはいたんですが、今日初めて参加させていただいて、すごく気に入りました。ありがとうございました。イベントも楽しかったです。

50年前の小網代を思い出しながら、今、歩いておるんですが、昔と比べて大分変わったなと思っております。ただ、カニさんがいないのが、ちょっとあれだと思うんですが、よく覗いたら穴の中にですね、オスのカニさんが棲んでおるということは分かりました。これから私も、低血圧か高血圧か知らないけれど、あと何年生きるか知らないですが、昔を思い出しながらですね、歩くと気分爽快、何とも言えないですね。本当に、今日は、こういう会を催していただいて、ありがとうございます。感謝しております。

ちょっと遅れてやなぎテラスに着きましたら、皆さん、本当に素敵な作品が出来ていて、びっくりしました。大成功でしたね、Mさん…。ありがとうございました。

家を出るのが遅れて大慌てで発車直前の電車に駆け込み、滑り込みセーフ！と思ったら本当に滑って転んで、痛いやら恥ずかしいやら……。というのを皮切りに、私にとってはハプニング続きの今日でした。そんな中でも、抜けるように青い空、賑やかな鳥の声、ひっそりと咲く秋の花の愛らしさ。森と優しいお仲間に癒されて、いつでもどんな時でも小網代の森に来れば元気をもらえると再確認しました。

久々の交流会で、天気も心配、スズメバチも心配。通り道を何通りも何通りも考えて、今日を迎えました。こんなにいい天気になって、皆さんにも、何とか、自発的に参加していただいて、よかったなと思います。Eさんの一言がなければ、ここの葉っぱの造形はなかったので、やはり皆さんの声を聴きながらやるのが、大事だなと思っています。また次回、12月5日ですので、また、よろしくお願いします。ありがとうございました。

随想 小網代てんてん (42)

樹の上で生きる―ヤドリギ

須田漢一

家の近くに、逗子市の保存樹木に指定されたケヤキがある。樹高16メートル、幹の周囲は4メートル強という。樹皮は縦に剥がれ、反り返ったように浮き上がって、10メートル位の所から太い横枝を張り巡らせている。

葉の落ちた頃、枝先に丸いものが見えてくる。

ヤドリギ（宿り木）である。

昆虫記で著名なファールは、幻の名著といわれる「植物記」の中で、ヤドリギは泥棒だ。樹木がつくりだした樹液を失敬する、と言った後で、しかしこの小低木は怠け者ではないとも言う。自分ではおそらく樹液（栄養分）をつくり出すことが出来ないのだから。そのため悲しいことに、ほかの物にすがりついて生きなければならないのだ、と弁護する。人の社会では労働できないからとの理由でも、盗みは許されない。その点、植物は寛

大だ。この泥どろさんに対して抵抗する様子は見せない。ヤドリギはすすくと延びて冬の季節に、鳥の巣のような直径50センチ以上もある緑の小枝を、球状に固めている。通り掛かる人は、しばらく眺め、病気かな？と去っていく。

昔の人は、天狗の巣だ、あの中には神様が宿っているのだ、とかいって樹の根元に小さな祠を祀った、と言われる。

ヤドリギの仲間は、世界の温帯地方に広く分布していて、日本では北海道から本州、四国、九州、沖縄の各地に見られる。土の中に根を下ろさず、空中で生活をするその姿は、外国でも不思議な植物とされ、北ヨーロッパ地方の古い宗教ドルイド教では、特に、ヤドリギを天と地との間に生きている神聖な植物と考え、司祭が切り落した枝を、お守りにしたという。この風習は、後世、クリスマスの飾り物として欠くことのできないものになった。

高い所に着いて生活する植物は、競争から逃れて、陽の光を十分に吸収でき、快適な高

層生活をしているように見える。しかし、それには大気中の水分・養分を吸収・保持する特別な能力を備える必要がある。長い生活のなかで樹液を横取りすることを覚えたヤドリギは甘い汁を吸うのに、さまざまな難問が待ち受けている。

樹の枝に深く根を下ろしてしまう、と引越しのできない定住者になる。一方ヤドリギに取り付かれた樹は、そんなことにはお構いなく、夏期には葉を存分に茂らせる。陽光が遮断され、ヤドリギは地上にある他の草木と同じように、高木の蔭に生きる運命となる。弱い光の下で生活する手段は、常緑性を獲得して、細く長く、自らも光合成みずかを営むことである。

そして、冬から春にかけて、葉の落ちた母樹の下で、十分な光を受け、花を咲かせ、生まれた果実（べたついている）は鳥に運んでもらい、どこかに新たな仲間を増やす。

このような生き方なら、ファールさんも怒らないだろう……。そんなことを思ってみる。

サロン小網代 舟塚山古墳から霞ヶ浦

2020.10.23 祖父川精治

遙か遠い昔に築かれた巨大なお墓である古墳、たった1体を埋葬するのに小山のような塚を築いたのである。政治の中心である関西や大和でなく、なぜ霞ヶ浦の北端にこのような巨大な古墳が必要だったのであろうか。後に、近くには常陸国国府や国分寺が、現在の石岡市内に置かれるようになる。

舟塚山古墳は茨城県最大級の186メートルの前方後円墳で、築造は古墳時代中期5世紀と推定される。東日本に限っても第2位の広さを誇る。因みに第1位は、群馬県太田市天神山古墳210メートル。我が国最大は、大阪府堺市の仁徳天皇陵と伝えられる大山「だいせん」古墳の486メートルである。世界の3大墓墳の一つに数えられている。

古墳は4世紀から7世紀にかけて盛んに、地域を支配していた大王や豪族の墳墓として築造されていった。代表的なものでは、四角い方墳、丸い円墳、帆立貝式古墳、そして大型の多い前方後円墳などがある。

上野駅から常磐線で1時間30分、土浦の2ツ先の高浜駅で下車する。

広い駅前には、大きな観光案内板があり舟塚山古墳の位置を確認する。左折し、広い車道に出て常磐線の踏切を渡る。緩やかな坂道を上り、途中から左折し小さな神社を確認する。

石碑が建つ鹿島神社脇から細道を登る。そこは舟塚山古墳上で、標高34.5メートルの3等三角点の標石を確認する。墳丘は、全長186メートル、前方部幅100メートル、後円部径90メートル、前方部高さ10メートル、後円部高11メートルの規模である。文字どおり3段構造の巨大な舟形をしている。

近くには、双耳峰の筑波山が望まれ、南には広大な霞ヶ浦が鏡のように光っている景勝地である。周囲は水田が大きく広がり、サイクリングコースが整備されて粋な名の恋瀬川が流れて行く。高浜駅から徒歩約30分の距離である。

大正10(1921)年、国指定史跡で大きな案内の看板が設置されている。霞ヶ浦の周辺には、数多くの古墳群がありその中でも最大級のものである。新治「にいはり」、行方「なめかた」、稲敷「いなしき」の3郡の地域を支配していた常陸国造りの始祖といわれる筑紫刀禰命の墳墓ではないかといわれている。舟塚山古墳の発掘調査はされていないが、周辺からは多数の刀剣が出土したという言伝えがある。

踏切まで戻り、遠く緑濃い森に囲まれた高浜神社へ向かう。

苔蒸した茅葺屋根に覆われた昔風の高浜神社、石岡市指定文化財。霞ヶ浦に面した高浜は常陸国の国府に近く、外港として栄えてきた。国司が常陸国内の鹿島、香取神宮などへ巡拝祈願する時は、この港から出立して行ったものである。昔から高浜の人達は、霞ヶ浦と呼ばないで高浜の海と呼んできた。

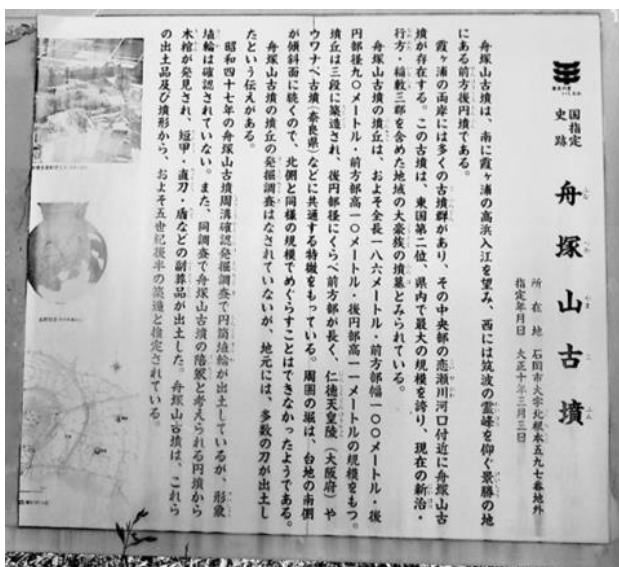
石岡市で建てた標識版には、「常陸風土記」より抜粋した文章が表示されている。遠く霞のように広がる霞ヶ浦を望んで、物静かな高浜の町中を巡り歩き恋瀬川に架かる愛郷橋を往復する。

霞ヶ浦は、我が国最大の琵琶湖に次ぐもので表面積は約4分の1、第2位の広さで、168.2km²。淡水と海水が混じり合う汽水湖。最大深度は7メートル。水位は海面と同じで0メートル。隣接して北浦は第15位で、広さ35km²。外海は太平洋の鹿島灘。霞ヶ浦の北側には、茨城空港がある。

昔は、霞ヶ浦の各所には渡し船があり、土浦港からは定期船が就航していた。現在は、霞ヶ浦を巡る通年運航の観光船が人気である。また湖岸周辺には、名物の蓮田も広がっている。

浦の意味は、海や湖の波静かな入り江とある。水面を渡る風を受け、大きな白い帆を張った「観光帆引き船」が復活している。最盛期には100隻以上が操業していたという。波穏やかな水面を滑るように進む帆引き船でバランスが難しい。高さ10メートル、幅20メートルの帆を掲げて舟を滑らせ水中の網を引く漁法。獲物は主にシラウオとワカサギである。

土浦駅の近くにある食堂「ほたて」は、明治2年(1869)創業の老舗。からりと揚げたワカサギの天ぷら盛り合わせ定食が人気である。



小網代を詩う

道

中井 由実

知らず知らず歩いてきたような気がしていた
でも、振り返ると

いつだって未来を見ながら進んできていた
本当にゆっくりだったかもしれないけれど

でこぼこで、見えない穴をかくした道

曲がりくねり ぬかるんだ道

不意に途切れることもあった

一度は人々が捨てた道

そして再発見した道

確かに平坦ではなかったね

と 今は笑い合う

楽しかったから 大好きだから

歩き続けることができた

それが小網代

さあ、また歩いていこう

次は冬枯れの尾根道にしようか

長靴

中井 由実

持ち物…長靴 飲み物 昼食…

昔は観察会の案内に必ず書いてあった長靴

古い田んぼの跡が残る谷道は

ずぶずぶと足が沈んでいく沼径だった

そんなことを覚えていることが

小さな自慢になる日が来るなんて

あの頃は想像もできなかったね



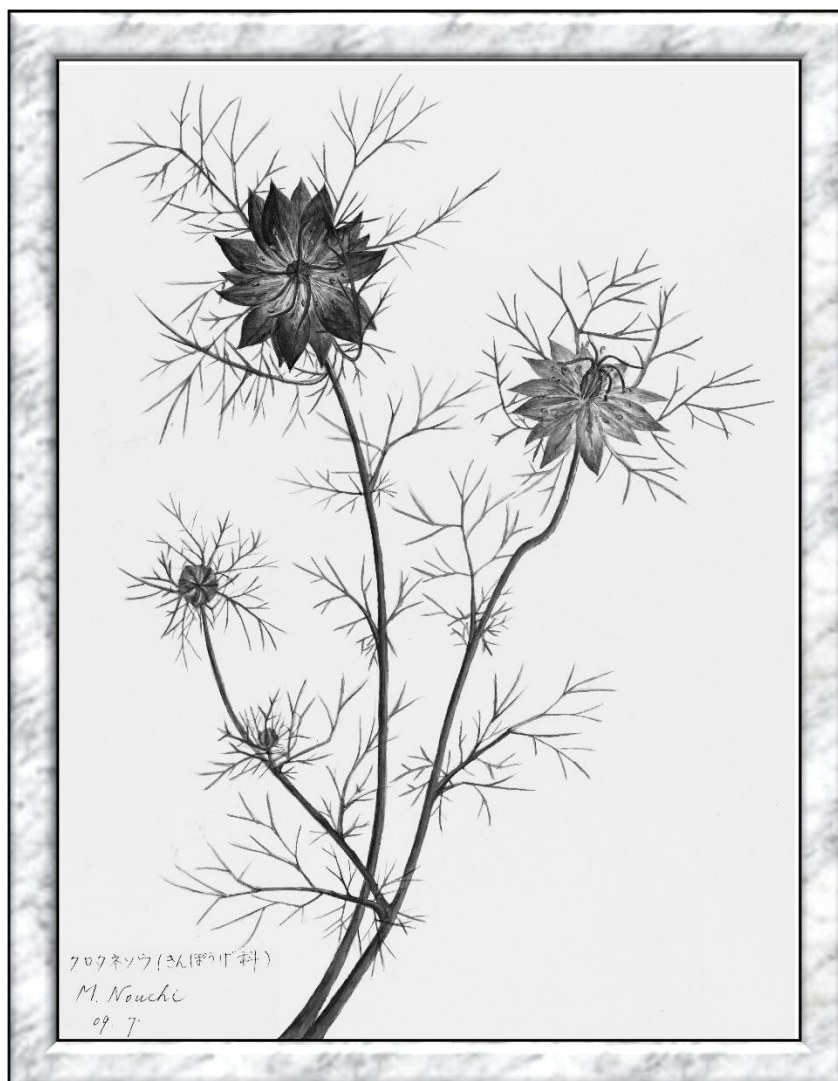
「あしあと」 伸

小網代詩人、中井由実さんの第三詩集刊行予定

第二詩集から 10 年の時を経て 2021 年 3 月下旬頃発行の予定です。10 年の間、変化を続けて来た森の様子、森と係る人々の想いと併せてお楽しみいただけるものとなるでしょう。

三浦半島の植物

クロタネソウ(ニゲラ) 2009 年 7 月



野内眞理子 画

小網代の森NEWS

●●● スタッフの活動 ●●●

- 2020.10.04(日) 通信 No.23 印刷(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2020.10.11(日) 第 23 回交流会 下見
下見後、スタッフ会議(ニナイテ フリースペース)
- 2020.10.18(日) スタッフ会議(リモート) 20:00～
- 2020.10.25(日) 第 23 回交流会「小網代の秋を感じよう！」
交流会終了後スタッフ会議(ニナイテ フリースペース)
- 2020.10.30(金) スタッフ会議(リモート) 20:00～
- 2020.11.08(日) スタッフ会議(ニナイテ フリースペース)

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203